

発音の誤りに関する Q&A ?

Q:発音の誤りとはなんですか？

A:例えば、「さかな」が「さたな」、「すいか」が「しゆいか」のように、別の音に置き換わったり、ある音が違和感のある音になったりすることです。

全ての音をすぐに、正確に発音出来るようになるわけではありません。音によって、発音出来るようになる時期や獲得にかかる期間が違います。そして、この発音の獲得には個人差があります。

▲国立特別支援教育総合研究所 HP 「親子で学べる発音教室」参照

Q:発音の練習はした方がよいのでしょうか？

A:時期やご本人、ご家族の思いなどによります。幼稚園や保育園などで、発音の相談をされた際、「様子を見ましょう」と言われた経験がある方も多いのではないのでしょうか。自然とよい発音を身に付けていく場合もありますが、次のようなときは、ぜひご相談ください。

- ・小学校に上がる前になっても、言えない音がある。
- ・違和感のある音になっている。(練習しないと治らない場合が多いです。)
- ・本人に、治したいという意思がある。友達との会話に困っている。



など

Q:発音の誤りは治りますか？

A:練習することで治ったり、明瞭になったりすることが多いです。ただし、発音の誤りによっては事前に医療受診し、練習効果が得られるかを確認していただく場合があります。

Q: きこえとことばの教室ではどのようなことを

しますか？



A: 次のような指導や支援をお子さんにあわせて行います。

- 口周りの筋肉が滑らかに動かせるように、体操をする。
- 舌の癖を取り除くために、舌の力を抜く練習をする。
- 正しい音と誤った音を聞き分ける練習をする。
- 音を作るための正しい舌の動かし方を練習する。
- 正しい発音で、言葉を読んだり話したりする練習をする。
- 在籍学級の先生方と必要な支援について共有する。



Q: 家庭ではどのような対応をしたらよいですか？

A: 次のような対応をしてみてください。

- ① お話中に発音を誤っても、指摘したり言い直させたりせず、やり取りを楽しんでください。
- ② 誤った場合は、自然なやりとりの中で正しい音を示して聞かせてください。



- ③ 肉や煎餅など、口をよく動かすような物を食事やおやつに多く取り入れて食べさせてみてください。
- ④ きこえとことばの教室で出された宿題に、一緒に取り組んでください。

Q:担任として、学級ではどのようなことに

気を付けたらよいですか？



A:家庭での対応①②と同様の対応をお願いいたします。あわせて、次の点について注意してください。

- ① 発音のことでからかい等があった場合は、からかった子へ毅然とした対応をお願いいたします。
- ② 日直や発表、音読などで、発音を誤ったり、不明瞭になったりしても、発表の内容や態度などを見て、頑張りを認めてください。
- ③ 言葉によっては、とても言いづらくなることがあります。劇のセリフ、音読発表などご配慮をお願いいたします。

☆子供たちが安心して学級で過ごせるよう、

きこえとことばの教室は支援していきます☆

